

目的 食餌性脂肪肝は少量の含硫アミノ酸を添加した低カゼイン飼料で、天然たん白質の牛肉たん白質、豚肉たん白質、卵アルブミン、米たん白質を成長期のラットに与えると生ずることが Elvehjem と Harper によりすでに報告されている。また、演者らは、米や小麦にオ一制限アミノ酸であるリジンを追加すると成長は改善されるが、一方、肝脂質の蓄積を生ずることをみいだしすでに報告した。また、Harper らは米たん白質のみで肝脂質の蓄積をみているが、それに反し、演者らは生じない結果を得て、その脂質代謝の差異は実験に用いたラットのストレインの違いによることをみいだし報告した。そこで今回は、この脂質代謝の違いが米以外のたん白質（小麦粉、カゼイン、卵アルブミン、魚たん白質）で生ずるかどうかを検討した。

方法 実験に用いたラットは、日本ラット K. K. の Donryu 系 (D 系) 雄幼白ネズミ、日本クレア K. K. の Sprague-Dawley 系 (SD 系)、Wistar 系 (W 系) の雄幼白ネズミを用いた。実験 I は、小麦粉、リジン添加小麦粉、実験 II は、カゼイン、メチオニン添加カゼイン、実験 III は、卵アルブミン、実験 IV は、魚たん白質、メチオニン添加魚たん白質の各飼料で 3~4 週間飼育した。

結果 実験 I では、SD 系は小麦粉のみで肝脂質の蓄積を生じたが、D 系ではリジン添加で肝脂質の蓄積をみた。実験 II、IV のカゼイン、魚たん白質ではいずれもメチオニン添加により脂肪肝を生じ、ストレインの差異はなかった。アルブミン投与ではいずれのストレインとも脂肪肝であった。このことから、食餌性脂肪肝に対するストレインの差は、米や小麦のような植物たん白質で起る事が推察される。また、血中脂質成分も検討を加える。